熊本DMAT派遣報告

川崎医科大学附属病院
DMAT隊員：藤本、岩本、犬飼、白髪



活動チーム概要

- 医師　　1名
- 看護師　2名
- ロジ　　1名

- 移動方法：救急車

活動期間

- 7/30～8/3

- 7/30に現地入り
- 7/31～8/2：本部活動
- 8/3 に撤収

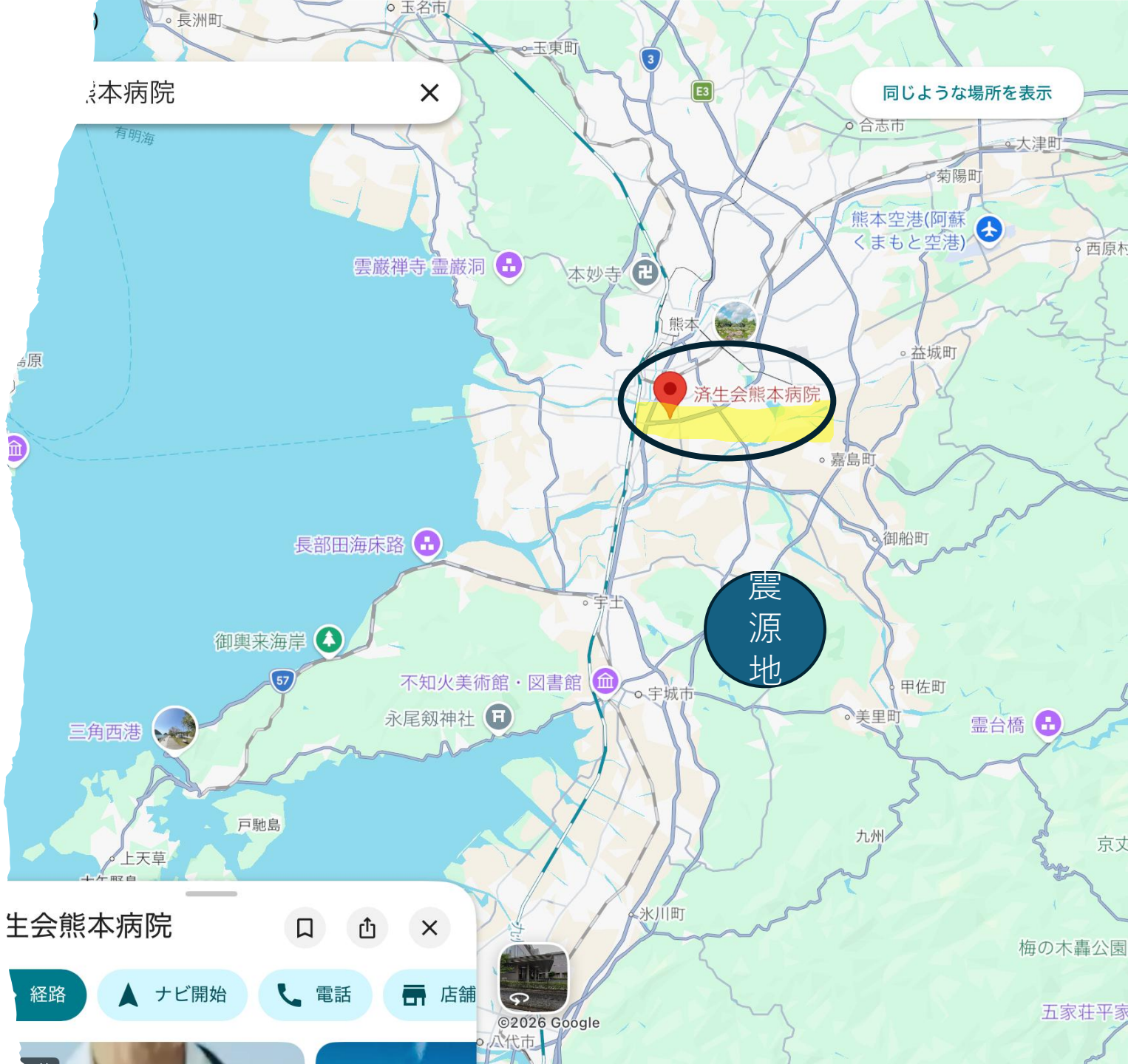


活動場所

- 県央南活動拠点本部
  済生会熊本病院

- ライフライン

電気、生活水あり、近隣のコンビニも空いていたが品薄の状態





CSCA（指揮系統）

- 県央南活動拠点本部

→本部から朝夕で全体会議から班ごとの会議を毎日実施。

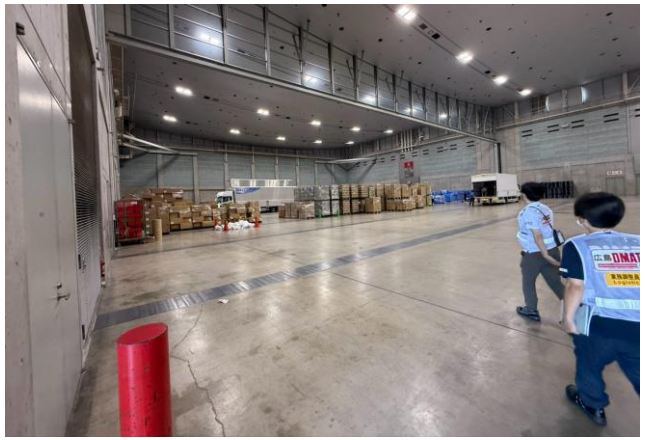
- 物資支援のリーダーを通して次に指示を貰えた。















活動内容

- EMISを活用し、病院、福祉施設の不足物資の確認。（施設支援や被災地支援とやや被るような活動あり）
- 物資：飲料水、食料、生活用水（貯水タンクの有無）
- 物資の集積所などの視察

課題・反省点

- 活動内容としては本部から役所に移行していくタイミングでもあったため、これまでの訓練と視点が違った。

- 他班と重複する内容でもあったためコミュニケーション不足でのエラー、連携の難しさを実感した。

後方支援体制

- 後方支援とは常に連絡（電話やメール）とEMISで活動状況を共有
- 現場で困ったことやトラブルがあればすぐに連絡を行い方針確認は取れる状態であった。
- 出発前や撤収後の準備と後片付けもスムーズに行えた。

今回の活動での気づき

- 本部活動の様子を見ていると縦のつながりとして本部長から各支援班の伝達はスムーズだったが横のつながりや相談はエラーもあり、コミュニケーションの大切さを痛感した。

- 班員は全員初出動でもあり、慣れない活動であったが、後方支援のバックアップ（相談のしやすさ）のおかげで不安なく活動できた。



失敗したこと、トラブル関連

●失敗談

- 緊急通行車両確認証明書の存在を知らずに高速道路をに乗ってしまった。

- コミュニケーションエラーで他支援班と仕事が被り、電話先の病院に苦言を言われた。

- 緊張もあり体調不良を起こしたこと

トラブル対応

- 本部外でのトラブルは後方支援へ相談と対応方法を確認を行なった。
- 本部活動でのトラブルは各班のチームリーダーと相談しすぐにチームリーダ同士での対話・コミュニケーションを行なっていただいた。
- 初参加でもありチーム内でも困ったことがあれば隊員同士で相談を行なった。



活動前後での心境の変化

- 後方支援の重要性を実感し、次回活動時は後方支援からのサポートで現場が円滑に動けるようにサポートをしたいと考える
- コミュニケーション（文字や文章ではなく対話）の大切さ
- 本部活動の時期による活動内容を改めて考え直す必要があると痛感しました。

ご清聴ありがとうございました

